

WORLD CLEANUP DAY 2025

活動報告書

-日本と世界各地の活動事例-



WORLD CLEANUP DAYとは？

2008年、エストニアで若者9人が不法投棄されたごみであふれた森林をきれいにしようと国じゅうに呼びかけました。「Let's Do It 2008」と命名されたこのクリーンアップ運動には1日で5万人以上(エストニアの人口の約5%弱)のボランティアが参加し、わずか5時間で1万トン以上の不法投棄ゴミの除去に成功しました。

人口の5%が一致団結して課題解決のために行動するという市民運動の力を見つけた、このサクセスストーリーに端を発し、人口の5%の参加を目指すクリーンアップ運動がヨーロッパ各国、そしてアフリカ、アジアへと広まり、2018年から世界各国で同じ日(9月第3土曜日)に地球を一齐にキレイにする「WORLD CLEANUP DAY」として実施されました。第1回の2018年には157ヶ国で1800万人が参加し、主催団体であるエストニアのLet's Do It Foundationは、2018年ユネスコ/日本ESD(持続可能な開発のための教育)賞を受賞しました。<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1409425.htm>

その後、主催団体がLet's Do It World NGOに再編され、毎年「WORLD CLEANUP DAY」が実施されてきました。2023年12月には「WORLD CLEANUP DAY」が国連国際デー(毎年9月20日)として登録され、国連国際デーになって初めて行なわれた2024年のWORLD CLEANUP DAYには191の国と地域で2300万人以上が参加、2025年も190の国と地域で2500万人以上が参加しました。これにより、2018年以降、累計で、延べ211の国と地域で延べ1億3900万人が参加し、推計で87万トン以上のごみが世界中で拾われてきたことになります。



日本の活動状況

日本でも2018年から、駐日エストニア大使館の支援を受けて「WORLD CLEANUP DAY」を開催しています。そして、2019年からは「海と日本PROJECT」の一環として、日本財団・NPO法人海さくら・WORLD CLEANUP DAY日本事務局の共催で「WORLD CLEANUP DAY」を実施してきました。2022年には、NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPANを設立し、引き続き「海と日本PROJECT」の一環として「WORLD CLEANUP DAY」を運営・実施しています。

WORLD CLEANUP DAY 2025では、国連国際デーとなった2025年9月20日を含め、2025年9月1日から30日までの間、全国各地で清掃活動が実施されました。参加者は延べ30,294人に上り、全国1000を超える箇所でクリーンアップが実施され、推計で合計32.4トンのごみを回収しました。

WORLD CLEANUP DAY 2025にご参加・ご協力いただいた団体・企業・個人の皆様、誠にありがとうございました。ご後援・ご協賛いただいた環境省様、駐日エストニア大使館様、日本財団様、各企業・個人の皆様にも感謝申し上げます。改めて、地球をきれいにするという壮大でありつつ身近な課題の解決に向かって、全国各地で一緒に取り組むことの喜びと素晴らしさを感じました。

2024年からは、「WORLD CLEANUP DAY」が国連国際デーの1日(毎年9月20日)となり、以前にもまして、世界とのつながりを実感しています。2025年9月20日には、国連大学本部ビルにて「WORLD CLEANUP DAY 2025 記念行事 ひとつ拾えば、世界とつながる」を開催し、各セクターのパネリストを迎え、立場を超えて意見交換が行なわれました。これを機に産・官・学・民が垣根を越えて連携し、世界とともに行動することが大きな力につながると考えています。世界各地で実施されるWORLD CLEANUP DAYを1つのきっかけとして、直面しているごみ・環境問題を考え、身近なところから実践し、同じ意識を持つ世界の人々と共に行動することで、大きな力を生み出し、課題の解決につながるものと信じています。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■ 日本での運営・実施団体

NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPAN 代表理事 浅井孝夫
〒135-0043 東京都江東区塩浜1-6-8-1309 info@worldcleanupday.jp



2025年 日本の集計結果



【推移】

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
参加人数	811人	4,333人	3,916人	5,949人	8,384人	16,745人	30,513人	30,294人
ごみ回収量	406袋	2,700袋	5,520袋	4,270袋	5,679袋	5,200袋	9,791袋	14,418袋

WORLD CLEANUP DAY 2025 記念行事 —ひとつ拾えば、世界とつながる—

■ 国連国際デー「WORLD CLEANUP DAY」当日の2025年9月20日(土)、
当法人は、国連大学本部ビル2階レセプションホールにて
「WORLD CLEANUP DAY 2025 記念行事 —ひとつ拾えば、世界とつながる—」を開催いたしました。

記念行事に先立ち、午前9時30分より、普段から渋谷駅周辺で清掃活動を実施されている「渋谷新洗組」様のご協力のもと、渋谷駅前から国連大学までの区間で多くの参加者の皆様と一緒に歩きながらクリーンアップを実施しました。



午前11時から式典を行い、代表の浅井孝夫より開会のご挨拶を申し上げた後、駐日エストニア臨時代理大使インドレク・エリクソン様、環境省 水・大気環境局 海洋環境課 海洋プラスチック汚染対策室 室長 中山直樹様より、心温まるご来賓のご挨拶をいただきました。

その後、企業・団体・学校の各セクターを代表して、パソナグループ様、一般社団法人しまぬわ様、渋谷新洗組様、成蹊中学校・高等学校様をパネリストに迎え、それぞれの取り組みをご紹介いただき、「ごみ拾いの輪をどう広げるか」などをテーマにパネルディスカッションを実施し、立場を超えて意見交換が行なわれました。終了後は、参加者同士のつながり、新たな協働のきっかけが生まれるひとときとなることを願い、軽食を交えながらの交流会を実施いたしました。

産・官・学・民が垣根を越えて連携し、世界とともに行動することが大きな力につながると考えています。

ご登壇、ご参加、ご協力をいただきましたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



WORLD CLEANUP DAY 2025 報告会&授賞式

■ 2025年11月22日(土)、株式会社グローバルプロデュース TOWN HALLにて、「WORLD CLEANUP DAY 2025 報告会&授賞式」を開催いたしました。

本年は「ひとつ拾えば、世界とつながる」をテーマに掲げ、世界中でクリーンアップ活動が展開されました。報告会当日は、全国各地で活動された皆様の熱い思いが集まる一日となりました。

今年は延べ30,294人の方々にご参加いただきました。特筆すべきは、回収されたごみの量です。昨年に比べ参加人数は微減となりましたが、回収量は大幅に増加しました。これは、より熱心に、そして深刻なごみ問題に深く向き合って活動された結果であると感じております。



■ 参加者の声・活動の広がり

報告会では、参加者の皆様から寄せられた多くの感想や気づきを共有しました。

- ・ **次世代への学び:** 「子どもたちが宝探しのごみを見つけてくれた」「環境を守る輪が広がってほしい」といった、未来を担う子どもたちへの教育的効果を実感する声が多く聞かれました。
- ・ **地域とのつながり:** 活動中に地域の方から「ありがとう」と声をかけられ、コミュニケーションのきっかけになったという温かいエピソードも寄せられました。
- ・ **環境への気づき:** 「一見きれいに見える場所でも、生垣の中にはごみが沢山あった」「マイクロプラスチックの問題について深く考えさせられた」など、清掃活動を通じて新たな気づきを得たという報告がありました。
- ・ **世界との連帯:** 世界中で同じ日に活動することの意義や、日韓国交正常化60周年を記念した同日開催など、国境を越えたつながりを実感する年となりました。



受賞された皆様、誠におめでとうございます。

そして、WORLD CLEANUP DAY 2025 にご参加いただいたすべての皆様に、改めて感謝申し上げます。
また来年も、皆様と共に「未来を変える挑戦」をご一緒できることを楽しみにしております。

■ WORLD CLEANUP DAY 2025 アワード受賞者

本年度、各部門において素晴らしい活動を展開された企業・団体・学校の皆様を表彰させていただきました。受賞された皆様は以下の通りです。



モビライズ賞

- 【企業部門】
りそなグループ(Re:Heart倶楽部) 様
株式会社パソナグループ 様
武蔵塗料ホールディングス株式会社・武蔵塗料株式会社 様
フィリップ モリス ジャパン合同会社 様
理研計器株式会社 様
株式会社NTTネクシア 様
- 【団体部門】
吉富町 様
兵庫県 様
NPO法人海さくら 様
NPO法人神戸海さくら 様
NPO法人Aqua Dream Project 様
富山県地域活性化団体まるごとTOYAMA 様
- 【学校・教育機関部門】
セリオグループ 様
東進ランゲージスクール 様

メディアインパクト賞

株式会社ノースサンド 様

エンゲージメント賞

パトラン東京 様
poc_act 様
静岡便教会 様

ローカルインパクト賞

株式会社神戸マツダ 様
株式会社モスフードサービス 様
合同会社縄文企画 様
プロギングみえ 様

スペシャルサンクス賞

PIRIKA 様 BLUE SHIP 様 株式会社グローバルプロデュース 様

ネクストジェネレーション賞

成蹊中学・高等学校 様
女子聖学院ecomame 様

クリエイティブアクション賞

あいレンジャー 様
海をまもろう。 様

インフルエンス賞

NPO法人ゆいむすび実行委員会 様
千葉愛の教会 様

Digital Cleanup Day 2025

■ Digital Cleanup Day(デジタルクリーンアップデー)とは?

Digital Cleanup Dayは、エストニアのNGO「Let's Do It World」が主催する国際キャンペーンで、毎年3月第3土曜日を中心に世界各国で実施されています。

現代社会では、インターネットやデータセンターを支えるシステムによって、年間9億トン以上のCO₂が排出されていると推計されています。また、世界のCO₂排出量の約3.7%がインターネット利用に関連しており、今後さらに増加すると予測されています。デジタルごみを削除することは、下記につながる、誰でもできる環境アクションです。

CO₂排出削減

端末・システムの高速度化

セキュリティ向上

コスト削減

Digital Cleanup Day 2025では、全世界で61の国と地域から54万1800人以上が参加、230万ギガバイトのデータが削除された旨の報告があり、これは推計で、年間575トンのCO₂排出の削減に匹敵します。

そして、日本は、参加者数で世界第5位となり、多くの日本の皆様がDigital Cleanup Dayに貢献してくださいました。誠にありがとうございました。



World Cleanup Day 2025 結果

World Cleanup Dayは、190の国と地域から2,500万人という記録的な数の参加者を迎え、過去最高の参加者数を記録しました。World Cleanup Dayは、2年連続でこの記録を更新し、この成果に貢献した重要なトレンドを浮き彫りにするなど、目覚ましい成功を収めました。

この大きな数字の背後には、各国の勇気とコミュニティの力強い物語があります。紛争が続く中、ウクライナは暗い時代に団結と希望を示す行動として、25万5,000人を動員しました。ブラジルとドイツは、それぞれ92万人と67万2,000人の参加者と、両国で大きな参加者数を記録しました。一番最初に全国的なクリーンアップデーが開催されたエストニアでは、5万2,304人が参加し、「Let's Do It!」という志は今なお息づいています。そして、ボランティア数が最も多かったのはメキシコで、550万人でした。

World Cleanup Dayは、世界人口の5%をクリーンアップ活動に動員し、社会全体の変化を生み出すことを目指しています。個人レベルでこの数値を達成した国々をご紹介します。

今年、これらの国々には、人口の6.81%が清掃活動に参加したカンボジア、13.65%のモザンビーク、8.09%で数年にわたり「5%」を達成したラトビア、そして13.71%という驚異的な数のキルギスタンが含まれています。

データを詳しく分析すると、持続可能な社会変革を求める私たちの呼びかけが、一般の人々だけでなく、特に政策立案者からも歓迎されていることを示す、心強い傾向が明らかになりました。Meltwaterによる国際メディアモニタリングによると、World Cleanup Dayは、様々なメディアを通じて24億回近くの視聴回数を記録し、ソーシャルメディアでのピックアップ数は前年比100%増加し、人々がクリーンアップだけでなく、ストーリーテリングや他者への啓発活動にも積極的に取り組んでいることが分かりました。

私たちは力を合わせ、より清潔で健康的、そしてごみのない地球の実現を目指す活動家として、大きな影響力を発揮しています。さあ、これらのトレンドを振り返り、World Cleanup Day 2025の主な成果を見てください。



2025年 世界の結果概要

参加者
2,500万人



190の
国と地域

国連
加盟国の
86%



顕著な結果を表した国・地域：2025年の参加者数上位10か国

メキシコ

5,537,009人

インドネシア

4,870,010人

フィリピン

1,250,000人

カンボジア

1,215,118人

モザンビーク

4,864,500人

米国

1,500,000人

キルギス

1,000,000人

ブラジル

920,000人

ドイツ

672,600人

イタリア

380,402人

■ 若い力

世界中で若者の関心が非常に高まり、World Cleanup Dayに参加する学校や若者が増えています。参加国の71%が、学校、幼稚園、その他の青少年団体と連携してクリーンアップ活動を行っています。特にモザンビークは顕著で、5,300校の若者を含む480万人がこの運動に参加し、合計7,610トンのごみを回収しました。

■ 行政の取り組み

もう一つの重要な傾向として、世界各国でWorld Cleanup Dayに参画する地方自治体が増加していることが挙げられます。毎年、地方自治体の首長から環境大臣、さらには大統領に至るまで、より多くの政府関係者に、私たちの使命とメッセージに深く関心を寄せていただいています。

この活動への関与の広がり、地域社会だけでなく、影響力の大きい意思決定機関においても、私たちの活動が広く認知されてきたことを示しています。政策立案者は、問題を認識するだけでなく、その解決に関与する必要があります。多くの国のネットワークリーダーは、廃棄物管理危機が深刻化する中で、法的拘束力のある政策の導入を政府に求めています。

■ ごみ - 地球の重荷を軽くしよう

World Cleanup Day 2025で報告されたごみの総回収量は、世界全体で164,499トンに達しました。この数字の多くは、各国のリーダーが提出した報告書から直接得られたものであることが重要なポイントです。

さらに、World Cleanup Dayの開催場所を追跡した結果、全世界で10,523の市町村で103,645件のイベントが登録されていました。ビーチクリーン、タバコの吸い殻拾いキャンペーン、プラスチック回収キャンペーンなど、多くの貴重なイベントが開催されました。



■ Let's Do It Worldファミリーに新しい国々が加わりました

私たちのムーブメントは、規模、エネルギー、影響力の面で拡大し続けています。World Cleanup Day 2025には、ソロモン諸島が初めて参加し、新たな節目を迎えました。

私たちの世界へのインパクトは大きく拡大しています。2018年にWorld Cleanup Dayを開始して以来、大きな進歩を遂げてきました。2018年から2025年にかけて開催された8回のWorld Cleanup Dayにおいて、私たちのボランティアネットワークは、国連加盟国の95%にあたる211の国と地域で87万2,000トンを超えるごみの除去に成功しました。これにより、世界人口の1.68%にあたる1億3,900万人以上が参加しました。

■ World Cleanup Day 2025のインパクト

World Cleanup Day 2025終了後も、各国リーダーは活動の成果に対して高い満足度を示しています。2026年にもクリーンアップ活動を実施する意気込みは、10点満点中平均8.59と高い水準を維持しており、前年の8.92とほぼ同じでした。一方で、ごみ汚染に対する社会の意識向上への影響についての評価は、過去2年間の 7.77から7.23とやや低下しました。それでも、88%のリーダーたちは、2026年9月20日のWorld Cleanup Day開催に強い意欲を示しています。

また、World Cleanup Day 2025の準備期間中のLet's Do It World本部からの支援の評価は7.32と前年よりやや低い結果となりました。支援のニーズとしては、2024年に多かった資金調達についてのアドバイスや戦略の代わりに、地元のパートナーとの連携に関するものが最も重要な支援項目として挙げられました。

このような各国リーダーからのフィードバックは、LDIW本部が目標達成に向けて、エネルギーやリソースを戦略的に配分する上で不可欠な示唆となります。

また、リーダーたちの報告によると、World Cleanup Dayへの参加者数、メディア報道、自主的なクリーンアップ行動、企業の参加、政府の関与など、さまざまな面で引き続き増加が見られています。

さらに、多くの国のリーダーはWorld Cleanup Dayだけでなく、年間を通じてさまざまな活動を実施しています。たとえば、学校や幼稚園での教育プログラム(参加国の71%)、地域コミュニティでの活動(52%)、企業との協働(50%)、ごみの分別やコンポスト(堆肥化)の取り組み(52%)、そのほかの活動(18%)などです。

このように、社会構造を根本から変えようとする絶え間ない意欲と、地域に根差した具体的な実践の積み重ねは、持続可能な解決策を実現するために欠かせない要素です。また、ごみ問題が社会に与える影響についての理解をさらに広げること、そしてこれらの課題に取り組むために分野を超えた連携を強化することの重要性も改めて認識されています。Let's Do It Worldは、世界各地で活動するリーダーのネットワークに感謝するとともに、今後もこうした協力関係を支え、発展させていくことに尽力していきます。



World Cleanup Day 2025 結果

2018年以来、国連加盟国の95%を含む合計211の国と地域で、世界人口の1.68%に相当する1億3,900万人が参加し、ごみの量872,787トンを回収しました。

■ 「5%」達成組

2018年以降、8か国が持続可能な変化に必要な転換点である人口の5%という目標を上回りました。

カンボジアは今年、人口の6.81%をクリーンアップ活動に参加させました。一貫して「5%」の活動率を維持しているラトビアは8.09%を動員し、モザンビークでは13.65%という驚異的な数字を達成しました。また、キルギスが今年、これまでで最も高い13.7%をクリーンアップ活動に参加させたことは注目すべきことでした。

2018-2025

参加者数
1億3,900万人

全世界人口の1.68%!

国連加盟国の
95%にあたる
211の国と地域が
参加

87万トン超の
ごみを回収

年	参加者数	国と地域	国連加盟国の%
2025	2,500万人	190	86%
2024	2,320万人	191	87%
2023	1,910万人	198	90%
2022	1,480万人	190	86%
2021	860万人	191	85%
2020	890万人	166	77%
2019	2,120万人	180	83%
2018	1,800万人	157	76%

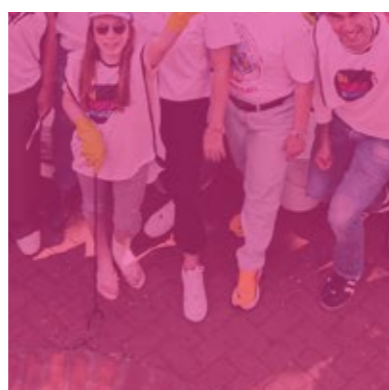
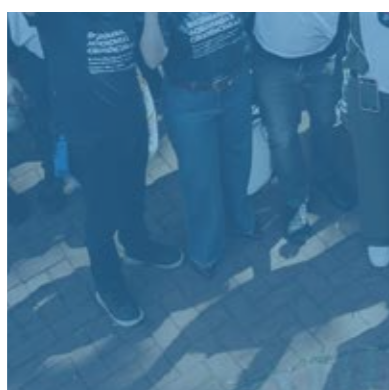
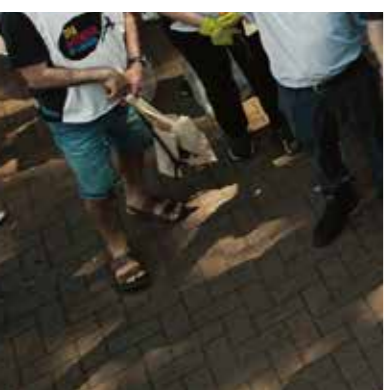
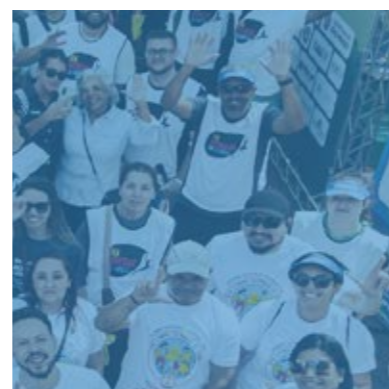
WCDネットワーク各国の 注目のストーリー

以下のストーリーは、世界的な協働アクションの一端に過ぎません。

各国・地域から紹介される事例は、協働の取り組みが大きな持続的な変化を生み出し、より深い環境意識を育み、地域の生態系と地球全体のより健康な未来を確かなものにしていくことを示しています。

(本報告書では一部のみ掲載しています。

グローバル年次報告書では、より多くの国と地域のストーリーをご覧ください。)



モンゴル



モンゴルにおいて、World Cleanup Dayは単なる年次イベントではありません。それは共通の目的意識と希望を象徴しています。2025年、この決意は朝早くから1万人以上の若者が集結するという、本当に素晴らしい瞬間を生み出しました。この集団行動を目の当たりにしたチームは、未来の世代への希望に胸を膨らませ、深い感動を覚えました。



バングラデシュ



バングラデシュのLet's Do It Worldムーブメントは、環境課題に取り組むため、特にスラム街コミュニティに焦点を当てて生まれました。この取り組みは、ストーリーテリングやアートを通じたスラム街の子どもたちの参加にとどまらず、責任感や集団行動の重要性を教えています。彼らの参加は自信と帰属意識を育み、その貢献の意義を示しています。バングラデシュのリーダーは、World Cleanup Dayのために若者やコミュニティを動員したことがどれほど意義深かったかを語りました。クリーンアップ活動、若者同士の協働、啓発キャンペーンをリードする中で、この仕事がどれほど大きなインパクトをもつかを彼らは実感しました。

カンボジア



カンボジアは1,215,118人のボランティアを動員し、その精神を貫きました。8つの省庁と協力してWorld Cleanup Dayを開催し、リーダーが最も的確に表現した言葉は次の通りです。「カンボジアは常に積極的な参加者の一人であり、共に創り出す変化を目の当たりにしています！」カンボジアは川、湖、海のクリーンアップに最新技術を活用しています。

コロンビア

Toto Serrath(トト・セラス)が率いるVamos a Hacerlo Colombiaは、「ごみは再利用を待つ資源に過ぎず、最も良いごみは発生しないごみである」という信念を広めています。2018年以降、チームは350カ所以上のクリーンアップ活動を組織し、12万人以上のボランティアを動員、5000トン以上のごみを回収し、そのうち3000トン以上のリサイクルに成功させました。コロンビアのリサイクルシステムを支える2万人の正規労働者と約6万人の非正規労働者が活躍するこの分野で、彼らの取り組みは責任感と資源回収の文化を拡大しています。



アラブ首長国連邦

アラブ首長国連邦では、若者グループ『Pristine』がWorld Cleanup Dayを主導し、14カ所以上のビーチをクリーンアップしました！これは単なるごみ拾いを超え、思いやりと寛容のマインドセットを育む取り組みです。小さな親切な行動から他者を鼓舞する行動まで、クリーンな習慣と適切な廃棄物管理の構築が鍵です。2026年は、責任ある廃棄物処理と環境意識が日常生活の一部となる持続的な文化を育むことに注力します。

ブータン

山岳王国であるブータンは、困難な地形、限られたインフラ、増加する観光によって廃棄物管理の課題に直面しています。ブータンのWorld Cleanup Day活動はSHE-Cycle Solution組織が主導しています。この取り組みは、同国の仏教的な環境管理の価値観と自然に一致しています。地元の寺院、学校、コミュニティ組織がクリーンアップ活動を環境責任の文化的なお祝いに変え、人々と自然との神聖な関係を象徴する巡礼路、観光地、水源に焦点を当てています。

ほぼ19年間、彼らは全国的な意識改革に取り組んできており、特に女性による目的意識の高いリーダーシップが本物の変革を促すことを証明してきました。彼らのビジョンは明確で意欲的です。ブータンを着実にごみゼロの2030年へと導くことです。

ケニア

Christine Sayo(クリスティン・サヨ)が率いるLet's Do It Kenyaは、「Mazingira Yetu ni Jukumu Letu(私たちの環境は私たちの責任)」というメッセージを掲げ、環境を守ることは誰の責任であるかを訴えています。

2018年以降、チームは全国で10万人以上の市民を動員し、30万kgのごみを回収しました。この取り組みは、Michuki Parkでのエストニア大統領とのクリーンアップや、ケニアの環境リーダーたちのエストニア訪問交流など、国際的な注目を集めました。都市化が進行し廃棄物システムが逼迫する中、この団体のコミュニティ主導モデルは実際的かつ拡張可能な解決策を提供しています。



ルクセンブルク

Clean Something for Nothingは、ごみゼロの地球というビジョンにコミットし、環境を美しくより住みやすいものにするクリーンアップを通じて社会を結束させることを目指しています。同団体はムーブメントの継続性を確保するための持続可能な資金調達を重視しつつ、コスト意識も維持しています。地元自治体が独自のクリーンアップを実施し市民参加を促すよう奨励しており、毎年恒例の春の「Grouss Botz」クリーンアップなどのイベントを基盤にしています。



ブルガリア

bTV Media Groupは、ブルガリアで最も信頼され影響力のあるメディアプラットフォームの一つです。社会的ブランドThe Good Exampleを通じて、同社は環境擁護の全国リーダーとなり、数年にわたり340万人以上をクリーンアップと持続可能性イニシアチブに動員してきました。ストーリーテリング、調査報道、コミュニティ主導のキャンペーンを通じて世論を形成しています。その活動は、メディアが意識と行動をつなぐ架け橋となり、環境責任を現代メディアリーダーシップの中核的柱に位置づける方法を示しています。



モザンビーク

モザンビークは今年、ボランティア数でトップ3に入り、驚異的に人口の13.65%がクリーンアップに参加しました！目標は若者の活性化とコミュニティ参加にあり、数千の学校がWorld Cleanup Dayだけでなく年間を通じてクリーンアップに参加しています。

課題があるにもかかわらず、草の根環境ムーブメントは驚くべき勢いを増しています。2018年以降、Repensarが率いるLet's Do It Mozambiqueは全国で数百万人の動員に成功しました。パンデミック中でも2021年には20万人以上が参加し、2022年と2023年にはそれぞれ250万人、325万人へと成長——すべての学校、コミュニティ、機関が関与しました。2023年には世界一のボランティア参加率とエンゲージメントを記録。WCDは環境アクションと市民意識の触媒となり、現在では非公式環境教育において重要な役割を果たしています。

イタリア

Let's Do It Italyは全国で積極的な市民参加と環境サステナビリティを推進し、ボランティア、学校、公的機関、企業を参加的かつ再現可能なモデルで巻き込んでいます。ソーシャルイノベーションラボであるSustainability Hubを通じて、活動的なコミュニティを育み、成功事例を交換し、サステナビリティのための全国ネットワークを構築しています。今年の参加者数でトップ10に入り、38万人以上を動員しました。



キルギス

キルギスは100万人のボランティアを集め、その進展は感動的です。WCDカントリーリーダーは次のように語りました。「学校での分別ごみ収集の経験を共有できて嬉しいです。私たちは『Zher Ene(母なる地球)』プロジェクトを実施しました。」本物のシステム、本物の教育、本物のインパクトです。

ウクライナ

ウクライナのWorld Cleanup Dayは決して止まりませんでした。国家の回復力と環境コミットメントの強力な象徴として浮上しました。2024年、全面戦争中、40万4121人が参加し、国内最大の社会エコイニシアチブとなり、忍耐のグローバルな模範となりました。2021年から2024年にかけて、110万人以上が12万トン以上のごみを回収。クリーンアップ活動は前線近くでも、癒し、エコボランティア、教育のツールとなっています。ウクライナはヨーロッパのWorld Cleanup Day参加上位国であり、戦時下でも卓越した市民参加を示しています。このイニシアチブは単純なごみ収集から、教育、心理的支援、コミュニティ再建を含む多面的なムーブメントへと進化しました。地元リーダーは比較的 안전한地域でクリーンアップを組織し、環境アクションと人道支援をしばしば組み合わせています。

ミャンマー

ミャンマーの焦点は、単純な個人行動をより広範な市民意識へと変えることです。World Cleanup Day 2025で築かれたワークショップ、アウトリーチ、現場クリーンアップの勢いは全国的なムーブメントの好奇心と可視性を呼び起こしました。その高まる関心が2026年のモチベーションとなり、さらに多くの若者の参加を期待しています。

国連ハビタットと密接に協力し、今後は環境意識拡大、地元コミュニティとの深い連携、すべての行動を長期改善に貢献させることを目指します。温かさや連帯感を込め、グローバルファミリーへのコミットメントを反映した最終メッセージ: Let's Do It Worldへの感謝と、今後の仕事で団結し続ける約束です。



フランス

World Cleanup Day Franceは、地球保護が共有責任であり、喜びと集団エネルギーが環境アクションを強力な力に変えるという信念を掲げています。2018年以降、World Cleanup Day Franceチームはクリーンアップを活気あるコミュニティイベントに変え、全国の個人、学校、団体、自治体、企業を巻き込んでいます。その努力で120万人の参加者を動員し、全国的な環境意識の高まりを反映しています。

トルコ

Cengiz Kasak (ジェンギズ・カサク) が率いるLet's Do It! Türkiyeは、よりクリーンで住みやすい世界は集団行動によってのみ実現すると信じています。2012年以降、このムーブメントは数万人のボランティアを動員し、ごみ収集にとどまらず市民意識と共有責任感を育んできました。World Cleanup Dayだけでも26万人以上が参加し、全国で優れた廃棄物収集システムと環境教育プログラムを促しています。



チェコ共和国

World Cleanup Day Czech Republicはできる限り多くの人々とパートナーを動員し、イベントを意義深い全国市民アクションへと発展させることを目指しています。収集データと社会的注目を活用し、ごみ・散乱ごみ課題の長期解決を提言します。2025年は河川敷と水路クリーンアップに注力し、最も活発なグループに持続可能な暮らしを支えるエコアイテムを報奨として贈りました。

フィリピン

フィリピンは2025年だけで125万人のボランティアを集め、国家目標は明確です。「きれいな空気とごみゼロの環境を実現すること」。政府との一貫したパートナーシップにより、この驚異的な数字を達成しました。

ラトビア

ラトビアはボランティア献身の輝く例で、今年15万人以上が結束し、Let's Do It Worldネットワークで9年以上継続的に熱意ある参加を記録しました。このキャンペーンは2008年のバルト諸国初全国イベントから始まるクリーンアップの歴史を基盤とします。現在、ラトビアは春のLielā Talkaと秋のWorld Cleanup Dayの2大全国イベントを開催。収集ごみ量が半減したのは、ポジティブな行動・文化変化の兆しです。この小国で71万3000人以上がクリーンアップに参加してきました。



エストニア

エストニアのWorld Cleanup Day活動は主に若者主導で、参加者の約90%が学校・幼稚園の子どもたちで、教師の指導を受けています。毎年人口の4~5%が参加する高い市民関与を維持。各回のクリーンアップは過剰消費、利便性文化、不適切な廃棄物管理から生じる特定課題——マイクロプラスチック、タバコの吸い殻、使い捨ての墓地のろうそく、健全なバルト海——に焦点を当てています。

インドネシア

インドネシアは480万人のボランティアで強力な存在感を示し、若者が立ち上がると本当の変化が始まることを改めて証明しました。成功の背景には特に環境省との強固な政府パートナーシップがあり、多様な群島国家全土——都市部のジャワから遠隔沿岸コミュニティまで——に活動を広げました。クリーンアップを超えた包括的な教育重視が特徴です。全国の学校に環境カリキュラムを導入し、エコ酵素製造、体系的ごみ分別、独自の「waste-for-seeds(ごみを種に)」交換など革新的プログラムを実施、ごみ削減と植林を結びつけています。



イラン

イランのWorld Cleanup Dayカントリーリーダーは、ネットワーク参加9年以上経ってもムーブメントが意義深い社会変化の強力な力であると語ります。最も誇らしい成果は、キャンペーンが地元環境グループ・NGOに年間を通じた独自イニシアチブを促し、国内環境ムーブメントを内側から強化したことです。

今年は自治体が直接協働し、収集ごみを直ちに埋立地へ輸送。今後の主目標は国民の5%参加率達成です。

台湾

台湾のWorld Cleanup Dayは効果的なコミュニティ動員と環境管理の好例です。2018年以降、Let's Do It Taiwanはビーチクリーンアップ、学校イニシアチブ、コミュニティ衛生、デジタルごみ削減で行動と支援を組み合わせています。年次テーマ——生物多様性、持続可能海洋、ごみゼロ暮らし、ネットゼロ変革——が地元努力をグローバル目標に向かわせ、7万人以上が参加し、250トン以上のごみを除去しました。

アメリカ合衆国

アメリカ合衆国は今年150万人のボランティアを集めました。多くの地域で散乱ごみが減少しはじめ、实际的で測定可能な進展を示しています。小さなステップが積み重なり大きな変化を生む完璧な例です。

Kosovo

コソボのリーダーは明確に述べました。World Cleanup Dayはボランティア動員と機関の環境保護を本気にさせる強力なツールです。焦点は廃棄物管理変革と本物の循環型経済への移行。理論ではなく行動に基づく転換です。



Panama

パナマは環境アクションを人々・地球への思いやり、結束、愛の表現に変えています。2025年、全国で1万350人以上のボランティアが参加し、集団行動の力を示し、地元環境に持続的・目に見えるインパクトを残しました。この勢いを基に、Let's Do It Panamaは参加拡大と沿岸・農村部への新コミュニティ到達を目指し、環境管理、市民達の誇り、未来世代への希望を育むムーブメントを推進します。

Mexico

World Cleanup Day Mexicoはこうした課題に対する強力な対応策として台頭してきました。7年以上にわたり、全国支援を集め、毎年数百万人が参加。7年連続World Cleanup Dayで学校、企業、大学、政府機関がクリーンアップと環境保護意識向上の集団任務で結束しました。

この取り組みは革新的なリサイクルキャンペーンも展開し、特に注目すべきは1300万本以上のタバコの吸い殻の回収で、推定6億5000万リットルの水汚染を防止したことです。これは「World Cleanup Day」の旗印のもとで実施されたメキシコ史上最大規模のリサイクルキャンペーンの一つです。このムーブメントの成功は、特に若年層を中心に高まるメキシコの環境意識を反映しており、彼らは国内の廃棄物危機に対する持続可能な解決策をますます強く求めています。

そして今年、メキシコは驚異的な成果を達成！500万人以上のボランティアがWorld Cleanup Dayに参加、世界最大動員を記録しました！



後援：環境省

【 運営協力 】

NPO法人海さくら
日本・エストニア友好協会

【 後援 】

駐日エストニア大使館、国立市

【 協賛 】

CMA CGM JAPAN株式会社
株式会社グローバルプロデュース

【 地域パートナー 】

NPO法人海さくら
WCDJくにたち
千葉愛の教会
WCDJ浜松/三遠南信
cosmecco EMA
NPO法人ゆいむすび実行委員会
合同会社縄文企画
一般社団法人ClearWaterProject
クリーンアップレンジャーズ
NPO法人HUB&LABO Yakushima
海をまもろう。
中目黒村美化委員会
プロギングみえ
一般社団法人しまぬわ
富山県地域活性化団体まるごとTOYAMA(富山応援隊)
CGMボランティア福岡
一般社団法人推し巡り協会
WCDJ国分寺
あしもとテラス
別府プロモーション
新潟海さくら(エシカライズ)

Thank You!



worldcleanupday.jp



NPO法人 WORLD CLEANUP DAY JAPAN

info@worldcleanupday.jp